

養護教諭の行う健康相談に関する文献検討

久保田 かおる 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
中 下 富 子 埼玉大学教育学部

キーワード：養護教諭、健康相談、文献検討

1. はじめに

養護教諭は、「養護をつかさどる」専門職として、子どもたちの健康・発達ニーズに寄り添い、救急処置活動を行いながら、健康教育、健康相談、連携、協働のコーディネーター等と「養護」という機能を拡大させてきた¹⁾。また、中央教育審議会「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」(答申)²⁾においては、養護教諭が「現在、救急処置、健康診断、疾病予防などの保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動などを行っている。」と職務を分類したうえで、養護教諭を「学校保健活動の推進に当たって中核的な役割」と位置づけ、さらに、学校内外のコーディネーターの役割を担う必要性を言及している。

また、児童生徒の健康問題はメンタルヘルスやアレルギーに関する課題の増加など多様化しており、個々の心身の健康問題の解決に向けた健康相談が重要視されている³⁾。

さらに、文部科学省「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」⁴⁾において、健康な生活を送るために児童生徒に必要な力として「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感(自尊感情)」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」の4つの力が挙げられた。これらを支える柱が「管理職」「学級担任、栄養教諭等の教職員」「学校医」「保護者」「地域住民」「SC」「SSW」「養護教諭」の8本で示された。ここで特出すべきは「学級担任、栄養教諭等の教職員」の中の一員としてではなく、「養護教諭」の1本柱として独立していることである。このことは、平成20年学校保健法等一部が改正され、平成21年学校保健安全法として施行された第8条及び第9条のとおり、健康相談の概念が変化し重視され、さらにそれを担う主要な主体が養護教諭であると明記されたことと同様と考える。すなわち、養護教諭が保健指導や健康相談に関し調整役やリーダーとして期待されるようになった⁵⁾と理解できる。

生徒が自分の身に起こり表面化する様々な課題や問題を受け止め、課題を乗り越える場面で、養護教諭は他の教員同様に心身の健康の保持増進を担当する役割を通して随時、保健室においてタイミングを逃さず、心身の健康に関する知識を基盤に、教育活動を行い指導している⁶⁾。これらのことから、養護教諭は職務である健康相談をとおして、児童生徒一人一人の健康課題に対する支援方法を検討するために「養護教諭」及び「健康相談」をキーワードに文献検討することは必要であると考えた。

ここで「健康相談」の名称の経緯について確認する。「健康相談」は平成9年の保健体育審議会答申³⁾において養護教諭の新たな役割である「健康相談活動」として提言された。その後、旧学校保健法の一部改正²⁾により「健康相談活動は、学校保健安全法第8条の健康相談に含む」となり、現在に至っている。

2. 目的

本研究の目的は、養護教諭が行う健康相談に関する研究動向を概観し、養護教諭の「健康相談」に関する現状と課題を明らかにすることである。

3. 方法

1-1 手順

国立情報科学研究所NII学術情報ナビゲーター (CiNii)、及び医学中央雑誌を用い、キーワードを「養護教諭」「健康相談」として検索を行った。検索期間を2008年から2018年2月として検索した結果、252件の論文が検出された。これらのタイトルから、明らかに養護教諭と健康相談に関する内容を取り扱っていないと判断されるもの80件、特集・学術集会報告・学術雑誌以外の雑誌記事124件、合計204件を除外し、残る48件中、取り寄せができた42件を分析対象論文とした。

1-2 期間時期

検索及び文献収集期間 2018年2～3月

1-3 分析の視点

42件の文献を、年代別に整理し、養護教諭の健康相談に関する研究動向を概観するとともに、議論の動向を把握するために、キーワードの整理を行い、養護教諭の活動や専門性を考慮し、「ニーズに応じた健康相談」「方法 (スキル)」「評価 (自己・他者)」「困難感」「連携」「意思決定」「文献検討」「その他」に分類整理し、養護教諭の健康相談に関する現状と課題を明らかにした。

4. 結果及び考察

1-1 養護教諭の健康相談の分類別文献整理の結果 (表1-1～表1-8) (以下、文中○数字は文献一覧表と対応)

(1) 「ニーズに応じた健康相談」における健康相談について (表1-1)

「ニーズに応じた健康相談」に関する文献は計9件得られた。学校種別による発達段階にみられる特徴等、独自の視点があった。養護診断開発において、心理・発達・精神面での診断項目の検討と診断指標が必要であること^①、災害時の養護教諭の実践活動は児童生徒の安否、救急処置や衛生管理、感染症予防活動、心のケア等々多岐にわたっており、災害時における学校保健室の機能と養護教諭の役割を明確にし、確認しておくこと^②、大学の保健室担当者に青年期の精神的自立支援を行う役割があること、そして関係者と連携を図り組織的に取り組むことが示唆されたこと^③、身体の不調を訴えながらその背景にはメンタルな問題を抱え、悩みは学校のスケジュールに影響を受けると推測され、深刻な病態を抱えた事例はより多くの相談回数を要したこと^④、「気持ち悪い」という訴えは単に吐き気などの消化器症状のみならず、心身の不調の表現であると考えられ、ていねいに問診し、休養させ経過をみる対応が有効であること^⑤、学校生活支援のために養護教諭が担う役割は、子どもの内なる力を引き出す、子どもの症状の改善・治療、子どもの自己理解・

自己肯定、集団への適応を助ける役割であること^⑥、児童生徒から読み取る内容を「意思の読み取れなさ」から「教室に帰室するまでの過程を見込む」ようになるまで変化させ、養護教諭が自己管理能力の発達途上にある児童生徒の気分に対応することは言語化できない状態への対応として意義があること^⑦、家庭内暴力の事例の分析結果として、適切なヘルスアセスメントをする、職の特質や保健室の機能を活かす、保健教育につなげる、コーディネーターとして役割を果たすことが養護教諭の職務のあり方として示されたこと^⑧、保健室は安心して他者と話せ、自己決定ができる場であり保健室登校生の成長を支援する場であり、養護教諭は生徒の人的成長を支援する教育職員としての存在理由があること^⑨であった。健康相談においては、そのニーズにおいて対応方法が異なることは必然と考える。そのため、養護教諭は児童生徒の様々な症状や緊急時の場面においての対応を想定し、研鑽を積む必要性が示された。

表1 分析の対象となった文献(42件)一覧表(表1-1~1-8)

表1-1「ニーズに応じた健康相談」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|---|--------------------------------|
| ① | 鎌塚優子他：子どもの心の問題が存在する可能性がある判断するときの養護教諭の視点—フォーカス・グループ・インタビューによる小学校、中学校、高等学校の視点の抽出—。日本健康相談活動学会誌，5(1)，40-65，2010 | 養護診断 学校種別 心フォーカス・グループ・インタビュー |
| ② | 佐光恵子他：新潟県中越沖地震における養護教諭の実践活動と学校保健室の機能について—養護教諭へのインタビューによる質的分析から—。日本公衛誌，58(4)，274-281，2011 | 新潟県中越沖地震 避難所 保健室 養護教諭 応急処置 |
| ③ | 水田明子他：大学における来談者相談に対する保健室担当者が抱える困難と課題。日本地域看護学会誌，14(2)，92-100，2012 | 大学生 健康相談 保健室担当者 看護概念創出法 |
| ④ | 海老澤恭子：高等学校における健康相談事例のICD-10分類。学校保健研究，53，419-428，2011 | 健康相談 高校生 養護教諭 ICD-10 |
| ⑤ | 菅原優子他：「気持ち悪い」と訴え保健室に来室する高校生に対する養護教諭の対応。学校健康相談研究，9(2)，93-103，2013 | 「気持ち悪い」という訴え 高校生 養護教諭の対応 問診 休養 |
| ⑥ | 砂村京子他：統合失調症の生徒への学校生活支援のあり方—事例分析から保健室と養護教諭の役割を探る—。学校健康相談研究，9(2)，104-118，2013 | 養護教諭 保健室 統合失調症 学校生活支援 |
| ⑦ | 松永恵他：養護教諭はどのように児童生徒の不定愁訴に対し帰室を促していくのか—1回の来室対応と対応時の思考についての仮説生成研究—。学校健康相談研究，11(1)，54-64，2014 | 不定愁訴 養護教諭 気分 意思 満足 |
| ⑧ | 落合賀津子：養護教諭の職務のあり方について—健康相談に関する事例を通して—。北里大学教職課程センター教育研究(1)，65-72，2015 | 養護教諭 健康相談 事例 職務 |
| ⑨ | 花田千恵他：保健室登校生の成長過程と養護教諭の存在理由—女子高校生の3年間を振り返る—。学校健康相談，14(1)，50-61，2017 | 養護教諭 高校生 保健室登校 成長過程 存在理由 |

表1-2「方法（スキル）」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|---|---|
| ⑩ | 大沼久美子他：健康相談活動における毛布活用の有効性の検討―「毛布に包まれる体験」―. 学校保健研究, 53, 299-311, 2011 | 健康相談活動 毛布に包まれる体験 痛み軽減 ストレス軽減 支援方法 |
| ⑪ | 池川典子他：健康相談活動における心理・社会的アセスメントとその支援の有効性に関する研究―言語によるコミュニケーションが可能な知的障がいや発達障がいのある生徒への支援を通して―. 日本養護教諭教育学会誌, 15(2), 3-12, 2012 | 養護教諭 健康相談活動 心理・社会的アセスメント 知的障がい・発達障がい |
| ⑫ | 力丸真智子他：養護教諭のフィジカルアセスメント及びヘルスアセスメントの実態に関する研究―健康相談活動に焦点をあてて―. 日本養護教諭教育学会誌, 17(2), 41-53, 2014 | ヘルスアセスメント 健康相談活動 養護教諭 学校教育 保健室 |
| ⑬ | 石垣久美子他：行動論的コンサルテーションが健康相談における養護教諭の自己効力感に及ぼす影響. 学校保健研究, 58(2), 95-106, 2016 | 行動論的コンサルテーション 機能的アセスメント 養護教諭 健康相談 |
| ⑭ | 佐藤倫子他：養護教諭の健康相談・健康相談活動の実態から捉えた課題―小・中学校養護教諭対象の質問紙調査から―. 日本健康相談活動学会誌, 10(1), 90-99, 2015 | 健康相談・健康相談活動 校種 経験年数 講義 研修 |
| ⑮ | 只野喜代美他：問診票とチェックシートを利用した保健室における個別的保健指導(第2報)―震災時の高校生の来室と養護教諭の対応についての実態と、養護教諭の振り返り―. 学校健康相談研究, 13(1), 65-76, 2016 | 個別的保健指導 問診票 チェックシート 高校生 養護教諭 |
| ⑯ | 落合賀津子：高校生の性の健康問題に対する保健指導と健康相談―養護教諭の実践を通して―. 北里大学教職課程センター教育研究 (2), 101-111, 2016 | 妊娠や性感染症 健康相談 |
| ⑰ | 橋口文香他：保健室観・養護教諭観からみた健康相談の在り方に関する研究―女子大学生と現役養護教諭の比較調査より―. 九州女子大学紀要53(2), 115-132, 2017 | 健康問題 多様化 養護教諭 健康相談 |

(2)「方法（スキル）」における健康相談について（表1-2）

「方法（スキル）」に関する文献は計8件得られた。「毛布に包まれる体験」は子どもの心と体に影響を与えており、特に高校生には「痛み」「ストレス反応」が軽減し、有効な支援方法であること^⑩、知的障がいや発達障がいのある生徒に対する健康相談のプロセスにおける心理・社会的なアセスメントの有効な方法として、生徒の思考・感情・行動及び人間関係の築き方のアセスメントを支援のプロセスとして示したこと^⑪、フィジカル・ヘルスアセスメントの興味関心は高く、フィジカルアセスメントと社会的側面、心理的側面、生活習慣の側面のアセスメントが行われていたこと^⑫、機能的アセスメントを新たに取り入れるべきスキルとして提示するより、すでに行っている実践の再理解を図る目的で提供することが、対応の根拠を明確化することにつながると推測されること^⑬、養護教諭の専門性を生かして概ね実施されているが、支援協力者との連携において経験年数による差がみられたこと^⑭、個別保健指導において養護教諭はまず「休養」させて苦痛を取り除くことを優先し、意識化、言語化、省察するために問診票とチェックシートが有効であること^⑮、学校全体で子どもたちの自尊感情を高め、性に関する健康相談をしやすい開かれた保健

室経営を養護教諭に期待すること^⑮、女子大学生の2人に1人が養護教諭に相談し、その対処としては「一緒に考えること」であること（女子大学生、現役養護教諭）^⑯であった。以上のように様々なアセスメントや対応の方法（スキル）が報告されていた。

表1-3「評価（自己・他者）」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|--|------------------------------------|
| ⑮ | 梶原舞他：健康相談活動場面における熟練養護教諭と新人養護教諭の実践的思考様式に関する比較研究—初期対応場面に注目して—。熊本大学教育学部紀要，人文科学59，265-274，2010 | 熟練養護教諭 新人養護教諭 思考様式 |
| ⑯ | 西岡かおり他：健康相談活動に対する養護教諭の自己評価—19項目版質問紙調査—。日本健康相談活動学会誌，6(1)，80-88，2011 | 健康相談活動 養護教諭 自己評価 |
| ⑰ | 門田新一郎他：養護教諭の健康相談活動に関する意識と実施状況—岡山県公立中学校・高校の養護教諭を対象として—。日本養護教諭教育学会誌，14(1)，63-75，2011 | 養護教諭 健康相談活動 中学校・高校 意識と実践 |
| ⑱ | 辻のどか他：養護教諭による健康相談とチームによる教育相談活動の評価—保健室頻回来室者と教育相談対象者の卒業状況と意識調査から—。高校教育研究，(66)，49-64，2015 | 健康相談 教育相談 支援体制 卒業の状況 |
| ⑲ | 林典子他：現地調査における保健室来室児童生徒への養護教諭の関わりに関する研究 I—小学校と中学校との比較から—。日本健康相談活動学会誌，10(1)，79-89，2015 | 養護教諭 観察法 児童 生徒 保健室 対応 |
| ⑳ | 黒子彩子：児童への対応場面における熟練養護教諭の実践知を示す視点の抽出—保健室実践のDVDの開発を通して—。学校健康相談研究，12(2)，132-144，2016 | 熟練養護教諭 実践知 視点の抽出 保健室実践 DVD開発 |
| ㉑ | 山中壽江他：養護教諭の健康相談における力量形成—養護教諭の自己評価に注目して—。児童学研究，聖徳大学児童学研究紀要18，53-60，2016 | 養護教諭 健康相談 自己評価 |
| ㉒ | 河本肇：養護教諭の健康相談に対する重要度と実践度についての自己評価—A県内中学校養護教諭を対象として—。学校保健研究，59(2)，116-122，2017 | 養護教諭 健康相談 重要度 実践度 自己評価 |

(3)「評価（自己・他者）」における健康相談について（表1-3）

「評価（自己・他者）」に関する文献は計8件得られた。健康相談活動場面でも、熟練養護教諭は新人養護教諭よりも活発な思考活動をしており、「即興的思考」では新人養護教諭を大きく上回ること^⑳、健康相談活動に対する自己評価はおおむね高く、他者評価の項目は低く、中学校より小学校の方が研究的視点を持ち、取り込むことへの評価が高いこと^㉑、重要な知識と技術、相談事例への対応と実践課程の実施上や連携上の課題、自己評価の方法や内容、資質向上のための研修などに共通する内容や課題を把握することができたこと^㉒、支援した児童が自らを肯定し他者を気遣う大人に成長したことは、養護教諭が行った健康相談・教育相談への取組の方向性が間違いでなかったことが明らかになったと評価できること^㉓、小学校と中学校では対応の時間、場所、体位、姿勢、距離に差が見られ、観察法は質問紙調査法では得られない実態を捉えることができたことを評価したこと^㉔、養護を活かした関わり方、養護ニーズの把握、疾病予防、養護ニーズに応じた指導や支援、協働関係づくりの5領域が熟練養護教諭の実践知として示されたこと^㉕、養護教諭が力量を形成するためには積極的に問題を持つ子にかかわること、教職員との連携、健康相談の知識技術を学ぶ意欲が必要で、一般教員に比べ養護教諭の研修体制について見直すべきである

こと²⁶⁾、養護教諭の健康相談は「心理的支援」「組織的対応」「校内連携」「SC・外部連携」「身体的支援」の5因子で構成され、いずれも重要度と実践度が高い値を示したこと²⁶⁾であった。「評価(自己・他者)」に関する文献8件中1件²⁶⁾が他者評価であった。実際に健康相談を行った生徒(卒業生)に質問紙調査を送り、その評価を結果としていた。その他7件の論文は自己評価であり、実際に健康相談を受けた生徒ではなく、養護教諭自身の評価であった。

表1-4「困難感」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|---|---------------------------------|
| ②⑥ | 中下富子他：経験の浅い養護教諭が抱く職務上の困難感と課題—A県スクールヘルスリーダー事業にかかわる調査結果から—。埼玉大学紀要教育学部, 59(2), 79-94, 2010 | 新規採用養護教諭 スクールヘルスリーダー 困難感 |
| ②⑦ | 菊地紀美子他：児童生徒の心因性の健康相談に対して養護教諭が抱えている困難とその対応。飯田女子短期大学紀要31, 89-114, 2014 | 養護教諭 心因性相談 困難と対応 健康教育 正当性 |
| ②⑧ | 畑中高子他：健康相談活動における中学校勤務5年未満の養護教諭が抱える困難感に関する研究。神奈川県立保健福祉大学誌, 12(1), 89-95, 2015 | 健康相談活動 5年未満の養護教諭 困難感 |
| ②⑨ | 清水優子他：養護教諭がづらい体験を乗り越えていくプロセス—研究仲間とのアクション・リサーチを通して—。学校健康相談研究, 12(1), 84-94, 2015 | 養護教諭 保健室閉鎖 荒れる中学生 つらい体験 研究仲間 |
| ③⑩ | 鈴木菜々他：新任養護教諭が抱える困難とその対処に関する研究。日本体育大学紀要, 46(2), 137-149, 2017 | 養護教諭 質的研究 |
| ③⑪ | 竹田文他：養護教諭における仕事満足感の関連要因—職業ストレス・ソーシャルサポート・自尊心に関する検討—。民族衛生, 76(6), 253-263, 2010 | 養護教諭 仕事満足感 職業ストレス ソーシャルサポート 自尊心 |

(4)「困難感」における健康相談について (表1-4)

「困難感」に関する文献は計6件得られた。新規採用及び5年経験養護教諭は「健康相談活動」「学校保健組織活動」に困難感を示し、系統的に研修内容をプログラム化する必要性が示唆されたこと²⁶⁾、児童生徒は訴えにくい、保護者の協力が得られない、チーム支援体制の不備、医療機関との連携不足、養護教諭の力量不足が、抱えている困難として挙げられ、望まれる相談は児童生徒を取り巻く関係者と連携し自律できる支援をしていくこと²⁷⁾、中学校勤務5年未満の養護教諭は、生徒とのかかわりにおける言葉かけ、養護教諭の特質、思春期特有の疾患の理解と対応、教員との連携、家庭との連携に困難感を抱えていたこと²⁸⁾、養護教諭の気持ち、保健室閉鎖前、保健室閉鎖時、アドバイスを受けた後、職員会議での提案時、来室カード使用時で、自信を取り戻し前向きな気持ちへと変化がみられたこと²⁹⁾、新任養護教諭が抱える困難のひとつに「様々な背景を抱えた子ども・保護者への対応の戸惑い」があり、解決策として「自ら聞いて解決」「困難の継続」といった方法が確認されたこと³⁰⁾、養護教諭は学校保健活動の中核として、関係職員と連携して健康相談の業務にあたっており、もっとも大事なものは担任との連携とされているが、養護教諭の多くが職務上の連携を困難と感じていること³¹⁾、であった。6件中4件の論文²⁶⁾²⁸⁾²⁹⁾³⁰⁾は、新任養護教諭が抱える困難感であった。思春期特有の疾患や病的疾患等の問題解決のためには、養護教諭だけでなく他の教員との連携が必要となる。そのために日頃から人間関係を築く必要があるが、

新任養護教諭にとって短期間で構築することは難しいと推察される。さらに、保護者の協力も不可欠である。20代早々の養護教諭が保護者の気持ちを理解することは相当難しいことが予想される⁷⁾。このように、生徒の問題解決のための体制づくりに困難を抱えていることが浮き彫りとなった。

表1-5「連携」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|--|--------------------------|
| ③② | 松原みきこ他：養護教諭の言語的対応—友人関係を原因として来室する子どもへの相談活動—。日本健康相談活 | 養護教諭 言語的対応スタイル 相談活動 友人関係 |
| ③③ | 強力さとみ：「相談ルート」と養護教諭のかかわりの検討—学校不適応行動を示す生徒の事例を通して—。養護教諭教育実践科学研，1(1)，8-17，2014 | 養護教諭 健康相談 連携 |
| ③④ | 山中壽江他：養護教諭の行う健康相談における力量形成（第2報）—力量が形成されるために必要な要因について—。児童学研究，聖徳大学児童学研究所紀要（19），37-44，2017 | 養護教諭 健康相談 力量形成 連携 |
| ③⑤ | 湯原裕子他：保健室頻回来室児童への養護教諭の対応（第1報）—成長を感じたエピソードの分析から—。学校健康相談研究，14(1)，95-109，2017 | 保健室 頻回来室者 養護教諭 成長エピソード |
| ③⑥ | 強力さとみ：学校不適応生徒の事例分析による「連携プロセス」における養護教諭の関わり。日本養護教諭教育学会誌，20(2)，49-58，2017 | 養護教諭 健康相談 連携 支援 学校不適応生徒 |

(5)「連携」における健康相談について（表1-5）

「連携」に関する文献は計5件得られた。養護教諭の何気ない発言が自らも気づいていなかった意図や意味を含み、個々の養護教諭に独自のスタイルがあること^{③②}、「相談ルート」は2つに分類でき、保健室に相談を求めてくる子どもは、養護教諭が特別支援コーディネーター的な役割を果たしていたが、保健室来室者が多い場合は子どものサインを見落とすこともあること^{③③}、熟練者ほど自己研鑽力が高く、健康相談の力量形成のために「連携力」「受容・援助力」「問題把握力」を身に付け子どもと関わりやすく、優れた教員と出会う経験が力量形成に影響すること^{③④}、養護教諭は頻回来室児童の成長を「身体面・精神面・社会生活面」の3つの視点からみており、親身に関わることにより信頼関係を基盤とした成長を促進させると考えられた。また養護教諭は学級担任や保護者の精神的な支えとなり連携していたこと^{③⑤}、養護教諭が生徒・保護者支援とコーディネーターとしての役割を担うことにより、学校内における支援組織体制が整備され、さらに専門的・組織的な支援につながったこと^{③⑥}であった。

連携とは、「同じ目的を持つものが互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと」（広辞苑）であり、養護教諭がコーディネートしながら、校内外関係者と児童生徒をつなぎ、組織として健康相談を行っていることが文献から読み取れた。

表1-6「意思決定」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|---|----------------------------|
| ③7 | 齋藤理砂子他：中学生の自己決定・判断能力、自己表現能力、対人関係能力を育成するための養護教諭の対応—インタビュー調査による対応のバリエーション拡大の試み—, 日本健康相談活動学会誌8(1), 56-68, 2013 | 養護教諭 健康管理能力 対応 中学生 保健室 |
| ③8 | 久保田かおる他：高校生の意思決定を促す継続的な健康相談の支援プロセス—養護教諭の支援記録の質的帰納的分析—, 学校保健研究, 58(1), 5-14, 2016 | 健康相談 意思決定 支援プロセス 養護教諭 |
| ③9 | 齋藤理砂子他：中学生の「判断・意思決定能力」を育成する養護教諭の対応力の尺度作成, 日本健康相談活動学会誌12(1), 36-44, 2017 | 尺度作成 対応力 養護 教諭 中学生 意思決定 |

(6) 「意思決定」における健康相談について (表1-6)

「意思決定」に関する文献は計3件得られた。健康管理能力育成のための視点として、さらに自己決定・判断能力育成のために5コアカテゴリ18カテゴリ、自己表現能力育成のために、6コアカテゴリ、30カテゴリ、対人関係能力育成のために6コアカテゴリ33カテゴリが追加されたこと^{③7}、健康相談における支援プロセスは、養護教諭は生徒に訴えを把握し、症状などへの気づきを促し、健康問題を明確にすることで、自らの意思決定を励ましつつ、自身と対峙しながら支援すること^{③8}、中学生の「判断・意思決定能力」を育成するための養護教諭の対応力の尺度が作成され「指導・方向づけ」「環境の提供・維持」「精神的支持」の3因子で構成され、いずれも、妥当性および信頼性が確認されたこと^{③9}であった。健康相談における意思決定支援の論文は3件であり、著者は2名であった。「意思決定」は、健康な生活を送るために児童生徒に必要な力として「自ら意思決定・行動選択する力」⁴⁾に挙げられているにも関わらず、論文数が少ない現状が明らかとなった。今後、養護教諭が行う健康相談の支援方法として、早急に、かつ十分に検討すべき喫緊の課題であると考える。

表1-7「文献検討」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|---|---|
| ④0 | 岩井由里他：養護教諭の行う健康相談に関する文献検討, 高知県立大学紀要看護学部編62, 45-55, 2012 | 健康相談 文献検討 養護教諭 |
| ④1 | 力丸真智子他：養護教諭の「健康相談活動」に活かすヘルスアセスメントに関する研究, 学校保健研究, 54(2), 162-169, 2012 | 養護教諭 フィジカルアセスメント ヘルスアセスメント 健康相談活動 実態 |

(7) 「文献検討」における健康相談について (表1-7)

「文献検討」に関する文献は計2件得られた。研究は数少ない現状であり、「健康相談活動」の名もない頃に養護教諭が行ってきた相談的対応の記録にも現代に求められているものと通じる。関係各所と連携し職務の特質を活かし課題解決のための支援を行っていくことが健康相談であること^{④0}、「健康相談活動」に活かす「ヘルスアセスメント」を検討し、養護教諭の職の特質、保健室の機能を活かすには構成要素はフィジカルアセスメント（身体的症状把握）、心理的アセスメント、社会的アセスメント、生活習慣アセスメント（背景要因把握）が概念モデルとして抽出されたこと^{④1}であった。いずれの論文も文献数が少ないことを指摘しており、今後ますます健康相談に関する研究を進めていくことが必要である。

表1-8「その他」

| 番号 | 文献 | キーワード |
|----|--|-------------------------|
| ④ | 佐藤倫子他：学校保健計画及び学校評価における健康相談・健康相談活動の現状と課題，日本健康相談活動学会誌，12(1)，45-49，2017 | 健康相談・健康相談活動 学校保健計画 学校評価 |

(8)「その他」における健康相談について（表1-8）

(1)～(7)の分類項目に該当しない文献は1件得られた。子どもの健康面に速やかに対応できる計画と、学校評価を生かした学校保健計画が策定されていないこと^④であった。健康相談を学校全体の取組として計画に策定されているかの報告であり、従来の研究テーマに見受けられない新しい分類項目であった。今後このような継続した取り組みが期待される。

1-2 文献レビューから見てきた養護教諭の健康相談に関する現状と課題

「ニーズに応じた健康相談」において対応方法が異なることは必然と考える。そのため、養護教諭は様々な場面においての対応を想定すべく、様々な方法（スキル）が報告されていた。児童生徒への支援方針の資料のひとつとしてのアセスメントシートの開発^⑧は、詳しい分析ができるメリットがあるが、詳細すぎて記録のために時間を費やすデメリットも見受けられた。簡易なアセスメントシートの開発の検討が望まれる。

「評価（自己・他者）」に関する文献8件中7件の論文は自己評価であり、実際に健康相談を受けた生徒ではなく、養護教諭自身の評価であった。論文⑩のように、実際に健康相談を行った生徒（卒業生）に質問紙調査を送り、その評価を結果とした客観的事実が捉えられるため、「他者評価」と「自己評価」の研究論文を同等数にして健康相談の評価と捉える必要がある。「困難感」では新任養護教諭が保護者の気持ちを理解することは相当難しいことが示され、生徒の問題解決のための体制づくりに困難を抱えている。

「連携」については、養護教諭がコーディネートしながら、保護者や校内外関係者と児童生徒をつなぎ、組織として健康相談を行っていた。「意思決定」に関する論文数が他と比較して少なかった。

以上が、養護教諭の健康相談に関する現状である。

「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」^④に様々な健康課題を抱える児童生徒が、課題解決に向けた支援を確実に受けるために、4つのステップを基本に養護教諭をはじめとする学校教職員、その他の専門スタッフが果たす役割が示されている。ステップ1「対象者の把握」ステップ2「課題の背景の把握」ステップ3「支援方針・支援方法の検討と実施」ステップ4「児童生徒の状況確認及び支援方針・支援方法等の再検討と実施」である。この手順は、まさに健康相談を進める手順と一致しており、文部科学省から、養護教諭の健康相談は学校における児童生徒の課題解決の基本的な進め方であると後押しされているものと理解してよいと捉える。さらに、平成27年中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（答申）^⑨では、校長のリーダーシップの下、教職員等がそれぞれの専門性を生かして子供たちに資質・能力を身に付けさせることができる学校と示された。養護教諭はこの「チーム学校」の一員である。学校の組織力と養護教諭の職務の専門性を活かしながら、児童生徒を支援することが健康相談の発展につながると考える。

健康な生活を送るために児童生徒に必要な力として「自ら意思決定・行動選択する力」^④が挙げられていることは、養護教諭が行う健康相談は児童生徒の意思決定を支援する方法と捉え、さら

に研究を深める必要がある。

5. まとめと今後の課題

養護教諭が行う健康相談に関する研究動向を概観し、養護教諭の「健康相談」に関する現状と課題を明らかにすることを目的として文献検討を行った。結果、「ニーズに応じた健康相談」「方法（スキル）」「評価（自己・他者）」「困難感」「連携」「意思決定」「文献検討」「その他」にそれぞれの課題を分類整理することができた。

養護教諭は児童生徒の訴える症状や緊急時等の個々のニーズに応じ、様々なアセスメントや対応の方法（スキル）を駆使し、コーディネーター的役割をして、各関係機関と子どもをつなぎ、連携を図りながら健康相談を行っていた。一方、経験年数の浅い養護教諭は教職員や保護者との連携に困難感を抱えていた。

意思決定についての論文数があまり見られない、「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」⁴⁾で示されている「自ら意思決定・行動選択する力」を、養護教諭が児童生徒につけさせる役割があることを鑑みると、今後実証的に検討すべき課題であると考え。意思決定とは一定の目的を達成させるために複数の代替手段の中から1つの選択をすることによって、意思を明確にして方針を決定することで、自己の意思をはっきりさせるところが特に重要である¹⁰⁾。このための支援を養護教諭が担うことと考える。今後これらの研究動向を踏まえ、さらに養護教諭の健康相談に関する研究をとおして、児童生徒の意思決定を導く支援プロセスの検討等明らかにする必要があると考える。

文献

- 1) 岡田加奈子：養護教諭養成教育機関の現状と課題。学校保健研究, 56(5), 346, 2014
- 2) 中央教育審議会：子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体の取組を進めるための方策について（答申）。2008.
- 3) 保健体育審議会：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について（答申）。1997.
- 4) 文部科学省：現代的健康課題を抱える子どもたちへの支援～養護教諭の役割を中心として～。2017
- 5) 衛藤隆：養護教諭による健康相談活動のこれから―学校保健安全法施行後を見据えて―。日本健康相談活動学会誌, 4:5-9, 2009
- 6) 平川俊功他：高等学校における養護教諭の行う生徒への発達支援に関する考察。学校保健研, 53(3), 241-249, 2011
- 7) 鈴木菜々他：新任養護教諭が抱える困難とその対処に関する研究。日本体育大学紀要, 46(2), 137-149, 2017
- 8) 大沼久美子他：養護教諭が行う心理的・社会的アセスメントシートの実用化に向けた検討。日本健康相談活動学会誌, 12(1), 50-64, 2017
- 9) 中央教育審議会：チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）。2015
- 10) 川崎優子：看護者行う意思決定支援の技法30―患者の真のニーズ・価値観を引き出すかかわり―。医学書院, 2017

(2018年3月29日提出)

(2018年4月5日受理)